

名大トピックス

NAGOYA UNIVERSITY TOPICS

No.230

2012年7月

第53回名大祭「歩けばそこに、未知がある」が開催される



目次

●ニュース

第53回名大祭「歩けばそこに、未知がある」が開催される	3
第6回AC21国際フォーラム2012を開催	4
「防災・減災カレッジ」キックオフイベントを開催	6
濱口総長が南京大学創立110周年記念式典に出席	7
濱口総長が全学教養科目「名大の歴史をたどる」で講義	7
第37回経営協議会を開催	8
プロジェクトギャラリー「clas」5周年企画を開催	8
キャンパスクリーンウィークを実施	9
第79、80回防災アカデミーを開催	9

●知の先端

細胞の機械的特性を超高速に測る 新井 史人（大学院工学研究科教授）	10
--------------------------------------	----

●キャンパスクローズアップ

理学南館	12
------	----

●知の未来へ

スーパーコンピュータで太陽地球系科学に挑む 梅田 隆行（太陽地球環境研究所助教）	14
---	----

●部局ニュース

第7回国立大学保健医療学系代表者協議会を開催	15
ザ・プロフェッショナル・レクチャー「東日本大震災：対米国広報の現場」を開催	15
金環日食観望会 in 名大「見上げよう、太陽と月のめぐり逢い」を開催	16
国際環境人材育成プログラム合宿研修を実施	16
第25回トークサロン「ふみよむゆふべ」を開催	17
第45回博物館コンサートを開催	17

●受賞者一覧

●本学関係の新聞記事掲載一覧 平成24年5月16日～6月15日	18
---------------------------------	----

●イベントカレンダー

●ちょっと名大史	22
----------	----

近年の名大祭② — 2000年以降 —	24
	28

「歩けばそこに、未知がある」が開催される 第53回名大祭





第53回名大祭が、6月7日(木)から10日(日)までの4日間、「歩けばそこに、未知がある」をテーマに開催されました。

名大祭に先立ち、5月13日(日)には、毎年恒例の名大祭プレ企画「仮装行列2012 Fancy Marching Story～みんなで彩る魔法のキャンパス～」が、名古屋女子大学中学校・高等学校吹奏楽マーチングバンド部や、交通誘導を行った中警察署など多くの方々の協力を得て、名古屋市栄地区の白川公園をメイン会場として実施されました。新入生がクラス毎に思い思いの仮装をして、栄中心部を練り歩き、沿道の歩行者の目を楽しませており、行列の最後尾には、リヤカーを引いた清掃隊が沿道のゴミを拾いながら行進しました。終了後に行ったクイズ大会では、本学にちなんだ問題が出され、足を止めた多くの方に、名古屋大学と名大祭をアピールしていました。

期間中は、東山キャンパスのいたるところで様々な企画が開催され、多数の来場者で大いに賑わいました。

8日(金)の夕方から第3グリーンベルトにおいて開催が予定されていた「第7回盆踊り企画～ザ!世界仰天フェスティバル～」は、雨天のためシンポジオン及びホワイエに場所を変更して実施されました。これは、近隣町内会の方々との協力企画で、当日は、近隣の小学校の児童が描いた似顔絵な

どが飾られた会場で、本学学生のほか、子ども連れで参加された方々が輪になって踊りを楽しんだり、学生が企画した風船釣りなどのゲームコーナーで、はしゃぐ子ども達の姿が見られました。

今回の名大祭では目玉企画の一つとして、9日(土)に名大祭本部実行委員会主催による学術講演が行われました。『あなたを磨く3つの指針～大学×企業×国家～』と題し、大学の代表として濱口総長、企業の代表として舟橋正剛シャチハタ株式会社代表取締役社長、国の代表として元官僚の本間政雄立命館アジア太平洋大学副学長の3人が、「人材」を題材に、それぞれの立場から講演を行った後、パネルディスカッションを行いました。会場となったIB電子情報館では、約100名の来場者が三者三様の人材論に熱心に耳を傾けていました。

9日(土)、10日(日)に第2グリーンベルト北側の路上で実施された「模擬店ストリート」では、40店舗の飲食物の屋台が立ち並び、各店舗に長い行列ができるなど、大変な賑わいを見せていました。名大祭では、保健所の助言を得て、厳しい衛生管理のもとで模擬店が運営されており、多くの来場者が、買い求めた料理に舌鼓を打っていました。

また、期間中は、研究室公開など学術的な企画も学内の各所で開催され、

高校生をはじめ多くの参加者が、普段見ることのできない大学での研究の一端に触れ、興味深げに見学していました。

その他、家族連れを中心に幅広い年齢層が楽しんだ参加型のゲーム企画や、ダンス企画、名古屋大学吹奏楽団あるいは民族舞踊団音舞による演奏会、大道芸人によるストリートパフォーマンス、古本市、各サークルや有志団体等の多種多様な企画が目白押しで、来場者を楽しませていました。

9日(土)の夜には、豊田講堂前庭でレーザーショーが行われました。これは、名大祭では初めての試みで、音楽に合わせて動くレーザー光線の美しさに、スモークが炊かれた会場は幻想的な雰囲気に入れられ、多数の来場者から盛大な拍手が送られました。

最終日の夜には、豊田講堂前庭の特設ステージにおいて「後夜祭～虹夜彩～」が行われ、日が落ちて夕闇に浮かび上がる豊田講堂をバックに、火舞の演技が披露され、集まった来場者は感嘆の声を上げ、東海地区最大規模の大学祭である名大祭の終演を見届けていました。

	2	3
1		

- 1 豊田講堂
- 2 会場の様子
- 3 メインステージでのイベントの様子

第6回 AC21国際フォーラム2012を開催



国際フォーラム開会のあいさつをする濱口総長

第6回 AC21（国際学術コンソーシアム）国際フォーラム2012が、6月12日（火）から14日（木）までの3日間、オーストラリア アデレード大学において開催されました。

AC21は、2002年に本学で開催された国際フォーラムにおいて、世界の教育・研究・産業組織による国際的な学術ネットワーク構築を目的として設立され、今年で設立10周年を迎えました。現在では AC21のメンバー大学は10カ国20大学にのぼり、2年毎の国際フォーラムや学生世界フォーラムの開催、国際共同研究の推進（助成金提供を含む）、ワークショップの開催、国際産学官連携プロジェクトの実施など、活動の幅を広げてきました。

AC21の主要イベントである国際フォーラムは、2002年に本学で開催されたのを皮切りに、2004年にオーストラリア シドニー大学、2006年に英国 ウォリック大学、2008年に米国 ノースカロライナ州立大学、2010年に中国 上海交通大学で開催され、第6回目となる今回の国際フォーラムには、世界各国の AC21メンバー大学の学長、副学長をはじめとする大学関係者や学生、政府機関関係者ら約130名が参加し、活発な議論が繰り広げられるとともに、参加者

間の交流が図られました。

「国際化がもたらす利益を最大限に活用する」をフォーラムのメインテーマに据え、5つのサブテーマ「グローバルな優先研究課題・研究能力の開発」、「企業とのパートナーシップ」、「異文化対応能力」、「学生流動化の促進」、「AC21パートナーシップの促進」が設定されました。

開会式では、ジェームス・マックワ アデレード大学学長と濱口総長のあいさつがありました。マックワ学長は、メンバー大学間のパートナーシップ強化の重要性について語り、総長は、国際化や持続可能な開発を促進するには、次世代の人材育成が非常に重要である点を強調しました。

フォーラムでは、様々な形で高等教育の発展のために尽力されている、クリストファー・エバンズ オーストラリア高等教育・技能・科学・研究担当大臣、クリスティアン・ボーデ ドイツ学術交流会前事務総長、ロバート・ヒル アデレード大学総長、張秀琴 中国教育部国際協力交流司司長、サイモン・マーギンソン メルボルン大学教授の5名による基調講演が行われました。

また、「中国との提携」、「大学ランキングの将来」、



国際フォーラムの様子



運営委員会の様子

「AC21 10周年記念：過去と未来」といったテーマのもと、パネルディスカッションも行われました。AC21設立10周年を記念して設けられた「AC21 10周年記念：過去と未来」のセッションや、メンバー校の学長・副学長の意見交換の場である「学長クラブ特別セッション」では、AC21のさらなる発展のために、具体的な提案が出され、活発な議論が展開されました。

今回、本学からは、サブテーマに沿って6名がプレゼンテーションを行い、「中国との提携」と「AC21 10周年記念：過去と未来」のパネルディスカッションにも各々1名がパネリストとして参加しました。

14日(木)午前には、AC21運営委員会がアデレード大学ノーステラスキャンパスにおいて開催され、午後からはAC21総会が同大学ウェイトキャンパスにおいて行われました。運営委員会は年1回開催されており、本学に設置されているAC21事務局の年次活動報告に続いて、運営委員会メンバーの交代制や総会の開催頻度、今年設立10周年を迎えるにあたり、これまでの活動成果と今後の課題についてとりまとめたAC21ポジション・ペーパー（2008-



総会参加者



質問に答える総長

2012)の内容、来年5月31日(金)から6月4日(火)に開催予定の「AC21国際スクーリング(仮称)」プロジェクトの詳細について議論が交わされました。その結果、総会を毎年開催する提案以外は、総会に付議することが承認されました。

総会では、事務局の活動報告に続き、運営委員会メンバーの交代制について改めて提案・承認され、次期運営委員会メンバー7大学(アデレード大学、ケムニッツ工科大学、上海交通大学、ステレンボッシュ大学、チュラロンコン大学、ノースカロライナ州立大学及び本学)が決定しました。また、来年に中国 同済大学で開催予定の学生世界フォーラムや、2014年に南アフリカ ステレンボッシュ大学で開催予定の国際フォーラムの準備状況について、主催大学から報告がありました。2015年にはフランス ストラスブール大学での学生世界フォーラム開催が決定していますが、2016年と2017年のフォーラム主催を希望する大学も複数あり、メンバー大学のAC21の活動に対する意欲が感じられました。

AC21設立10周年という一つの節目を迎え、今回の国際フォーラムでは、今後のAC21の方向性に関する議論はもとより、具体的な活動提案の実現のためにメンバー大学間で情報交換とネットワーキングが図られ、パートナーシップの強化により、AC21が提供する国際的な学術ネットワークを最大限活用しようという意気込みと取り組みが見られました。

「防災・減災カレッジ」キックオフイベントを開催



調印式の様子（左から3人目が総長）

「防災・減災カレッジ」キックオフイベントが、6月16日(土)、中区役所ホールにおいて開催されました。

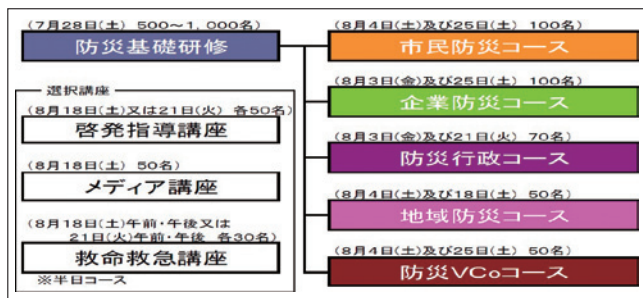
東日本大震災を目の当たりにした今、近い将来に予測される南海トラフの巨大地震の被害を可能な限り減らすために、地域をあげた備えが強く求められています。愛知県ではこれまでも、各機関で防災に関する積極的な取り組みや人材育成が行われてきました。「防災・減災カレッジ」は、あいち防災協働社会推進協議会が主催し、愛知県、名古屋市、愛知県商工会議所連合会、中部経済連合会、防災のための愛知県ボランティア連絡会、なごや災害ボランティア連絡会及び本学の共催で、そのような活動を結集し、産学官民が連携、協働して、地域防災をリードする人材を育成するための新たな取り組みとして計画されたものです。

まず、大村秀章愛知県知事、河村たかし名古屋市長、濱口総長など関係機関の代表により、地域協働による防災・減災のための人材育成に関する協定書の調印式が行われ、続いて同カレッジの概要説明がありました。その後、室崎益輝関西学院大学教授により「地域協働こそ減災の力」と題した特別講演が行われました。室崎教授は、東日本大震災のような巨大災害に立ち向かうためには、地域の協働により様々な面から防災・減災力を高めることが重要だとして、カレッジへの期待を述べました。会場には多数の市民をはじめ、行政、企業の関係者などが参加し、関心の高

さがうかがえました。

防災・減災カレッジは、まず、7月28日(土)に豊田講堂において災害・防災の全体像を学ぶ「防災基礎研修」が開催され、続いて8月に、市民防災、企業防災、防災行政、地域防災、防災ボランティアコーディネータの各コースに分かれた研修が実施されます。選択講座やワークショップも含めて50以上の科目が計画されており、講師は、本学をはじめとする大学の防災関連教員、行政等の防災担当者、災害関連のNPO、ボランティア団体、企業、防災活動や被災経験のある市民など幅広い層が担当することになっています。

本学は、これまでも防災を専門とする教員を中心に「中京圏地震防災ホームドクター計画」を推進し、10年以上にわたり地域の防災力向上に積極的に関わってきました。今回のカレッジでは、新たに設立された減災連携研究センターを中心に、講座の企画や講師の担当、会場提供・運営などを行っています。受講生が実的な能力を身につけ、それぞれの立場から減災活動を力強く進めていくリーダーとなることが期待されます。



平成24年度防災・減災カレッジのコースツリー

濱口総長が南京大学創立110周年記念式典に出席

濱口総長は、5月19日(土)から21日(月)までの3日間、中国を訪問し、南京大学創立110周年記念式典に出席しました。南京大学は、本学にとって中国における最初の協定校であり、本学は南京大学にとって初めての協定校で、今年両校が大学間学術交流協定を締結して30周年にあたります。



スミスフォーラムであいさつする総長

記念式典に先立つ19日(土)、総長は、両大学の高等研究院の主催による「第200回スミスフォーラム」と題した合同シンポジウムに出席し、冒頭であいさつをしました。同シンポジウムには、基調講演者として水田 洋本学名誉教授が招かれました。92歳の今なお研究を続ける水田名誉教授による、社会思想家アダム・スミスの人物像に迫った講演に、満員の会場から多くの質問と賞賛の声があがりました。

翌20日(日)に行われた記念式典は、南京大学の在校生、教職員、来賓が出席する中、国旗掲揚により開幕しました。中国国旗は南京大学の卒業生がデザインしたということもあり、このために天安門広場から会場へ運ばれ、天安門広場で実際に国旗の掲揚を担当している国の職員により掲揚されました。

記念式典では、陳駿南京大学長のあいさつがあったほか、長い歴史の中で、同学に顕著な貢献があった個人や団体を表彰することにより世代を超えて節目の年を祝うなど、式典に参加を促す工夫を凝らしたイベントが多数ありました。

濱口総長が全学教養科目「名大の歴史をたどる」で講義

濱口総長は、6月5日(火)、IB 電子情報館大講義室において、全学教養科目「名大の歴史をたどる」の講義を行いました。

この講義は、大学文書資料室が、全学教育科目における全学教養科目として開講しているもので、新1年生を対象に、創基以来140年に及ぶ本学の歴史を分かりやすく解説

し、これから大学生活をおくる上でのモチベーションを高め、アイデンティティの確立を支援することを目的としています。全15回の講義は、前半で本学の通史を説明し、後半で各説編としていくつかのテーマを取り上げ、1回完結のオムニバス方式になっています。総長が登場するのは、通史的な解説を一通り終えた後の第8回で、これからの本学について、総長自身が語る内容になっています。総長講義は、受講生の好評を得て、平野真一前総長の時代からほぼ毎年行われています。

総長は、「名古屋大学から Nagoya University へ」をテーマに、日本の置かれた厳しい状況を冷静に分析しつつ、君たちは今をどう生きるのかと問いかけながら、なぜ本学の国際化が必要なのかを解説しました。総長による講義は今年で4回目ですが、最新の状況やデータに基づいた資料を用意して、約200名の学生たちに熱心に語りかけました。

なお、この講義の様子を収録したDVDは、附属図書館等で視聴できる予定です。



講義する総長

第37回経営協議会を開催

第37回経営協議会が、6月14日(木)、豊田講堂第1会議室において開催されました。

会議では、濱口総長のあいさつの後、平成23年度実績報告書、平成23事業年度決算、平成25年度概算要求、平成24、25年度給与支給減額措置、名古屋大学職員給与規程等の一部改正、中期目標・中期計画の変更について、総長、



会場の様子

各担当理事、副総長からそれぞれ説明が行われ、審議の結果、了承されました。

次いで、平成23年度学部卒業生・大学院修了者等の進路状況、平成24年度学部・大学院入学試験状況、大学院の収容定員の充足率、外部資金の受入状況等、土地の寄附受入、経費節減、名古屋大学基金の寄附状況について報告が行われました。

外部委員の方々からは、給与削減についての暫定措置、国立大学改革の方向性、課題等に関して貴重な意見が寄せられました。

なお、同日には第13回総長選考会議も開催され、学内委員の紹介、総長に対する中間評価の実施方法等について確認されました。

プロジェクトギャラリー「clas」5周年企画を開催

プロジェクトギャラリー「clas」5周年企画が、5月15日(火)から25日(金)の間、全学教育棟において開催されました。

同ギャラリーは、「大学における視覚を通した複眼的な思考と総合的な知識の育成、地域を視野に入れた文化の向上」を目的に、全学教育棟内に開設されて5年が経ちまし

た。これまで、現代アートやデザイン、建築、科学や授業の成果、留学生たちの文化交流、教育学部附属高校生の作品、他大学との連携事業など、100余りの展覧会が開催されました。

今回の企画は、「clas」の5周年を記念して企画されたもので、芸術系科目の担当教員たちによる作品や著書が展示され、作品を鑑賞すると同時に、文字を通してアートについて考える機会となりました。また、「clas」が発行してきた記録誌『アニュアル』や、不定期で発行している『リーフ』、一昨年度と昨年度の実技授業の試行『アートクラス』のドキュメントも展示されました。

会期中の19(土)には、EU・ジャパンフェスト委員会の古木修治氏を迎え、レクチャーとシンポジウム「芸術の場をつくる」をIB電子情報館大講義室において開催しました。

海外との文化交流、地域とアート、マネジメントまで、現場での体験をふまえた貴重な話があり、有意義な議論が交わされました。



シンポジウムの様子

キャンパスクリーンウィークを実施

大学構内環境美化運動「キャンパスクリーンウィーク」が、名大祭終了後の6月11日(月)から15日(金)の間、全学の教職員及び学生の協力を得て実施されました。これは、環境月間である6月に環境保全に対する関心を高めるために行っているもので、12月に行う年末キャンパスクリーンとともに、平成元年から実施されています。名古屋市の一構成員として境界の外周道路清掃も併せて行い、環境美化に努めています。



清掃作業をする職員



事前説明を聞く職員

本部では、13日(水)の午後、薄曇りの中、高橋事務局長をはじめとした約130名の職員が、一斉に東山キャンパス構内及び周辺の市道に分かれて、空き缶・紙くず等の除去、雑草等の刈り取り、不要なビラ等の撤去などを行いました。

なお、昨年4月から名古屋市のごみ分別区分が変更されたことに伴い、改めて変更内容の説明を行うことで参加者の分別意識を高めました。

第79、80回防災アカデミーを開催

第79、80回防災アカデミーが、5月23日(水)、6月12日(火)、環境総合館レクチャーホールにおいて開催されました。

第79回では、護 雅史減災連携研究センター准教授により「来る南海トラフ巨大地震等による自然災害の軽減に向けた地域連携の取り組み～減災連携研究センターのこれか

ら～」と題した講演が行われ、同センター設立に至るまでの10年以上にわたる活動内容や体験学習教材について詳しく説明しました。また、防災人材育成研修プログラムや定期的に実施しているシンポジウムなどを紹介しました。さらに、国、地方公共団体、学会などの南海トラフ地震に対する取り組みについて解説しました。一般の方々など約170名が参加し、今後も開かれたセンターを希望するなどのご意見がありました。

第80回では、平川一臣北海道大学名誉教授により「津波堆積物を探して、観て、考えたこと」と題した講演が行われ、東北・北海道の沿岸を詳しく調査した結果に基づき、東北沖・北海道沖を震源とする巨大地震により数百年に一度の大津波が繰り返し発生していることが説明されました。3月に内閣府から発表された南海トラフ巨大地震の津波想定に関しては、津波堆積物の調査はまだ十分ではないと述べ、古くから開発が進められてきた西日本では地層が残っていないことも多いが、地形をよく観察すれば重要な情報が得られるとの今後の展望も示されました。約150名の参加者の関心は高く、参加者からは活発に質問が出されていました。



講演する護准教授(第79回)と平川名誉教授(第80回)

細胞の機械的特性を超高速に測る —オンチップロボティクスが拓く新しい時代—

新井 史人 大学院工学研究科教授

Micro-TAS (Micro-Total Analysis Systems: μ -TAS) という研究分野が活発化しています。最近では単一細胞解析、評価、細胞培養、組織構築、分析・検査などといった応用が増えており、応用範囲は急速な広がりを見せています。筆者はMicro-TASの方法論として共通する大きな特色は、マイクロ流体チップを使って“流れを活用する点”にあると考えています。もちろん、小型・集積化することによって反応効率が向上し、試薬を節約でき、並列化による網羅的解析を省スペースで実現できるなどの利点も重要です。流れを自在に操ることができれば、高速・連続処理、環境

制御が可能となり、工学的な魅力に富んだ方法になります。しかし、流体は細胞などの微小物体に精密に力学的相互作用を及ぼす目的には向いていません。

一方、これまで細胞の操作には機械式のマイクロマニピュレータが広く使われてきました。体外受精などは大きな成功例といえます。しかしながら、機械式マイクロマニピュレータはサイズが大きいため、マイクロ流体チップと併用することが困難です。そこで、著者は力学的相互作用に適したロボットをチップ内部に収まるよう小型化し、これをマイクロ流体チップ内部で操作する方式を

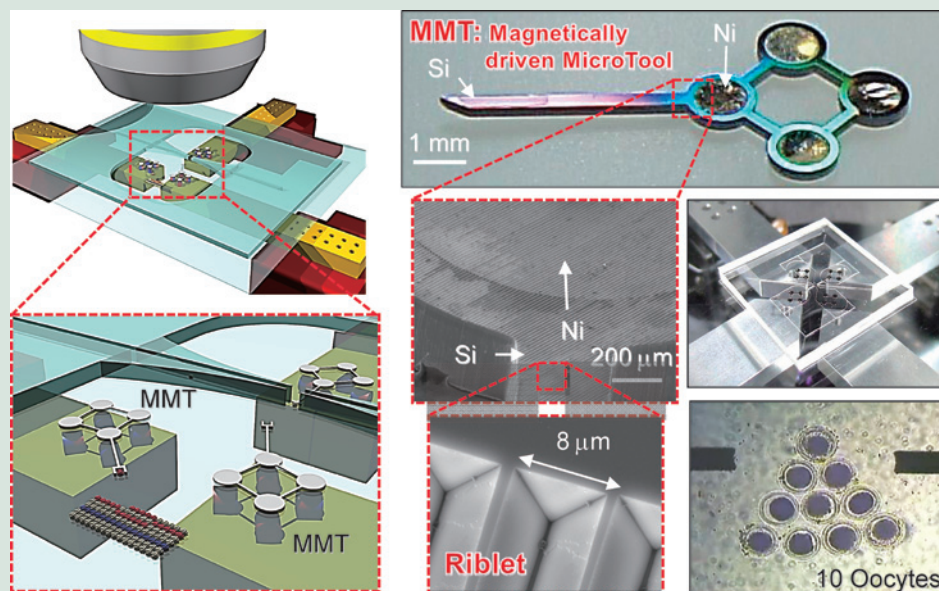


図1 オンチップロボット:マイクロ流体チップ内部に作業ツールを組み込み、これを磁場、電場、レーザーなどの外部エネルギーにより非接触で駆動する。高速化に適しており、チップ部分はディスポ構造となっている。図は磁気駆動タイプの試作例と細胞操作の様子。作業ツールの底面にリブレットと呼ばれる微細な凸凹構造を形成することで90Hz程度の高速駆動が可能である。

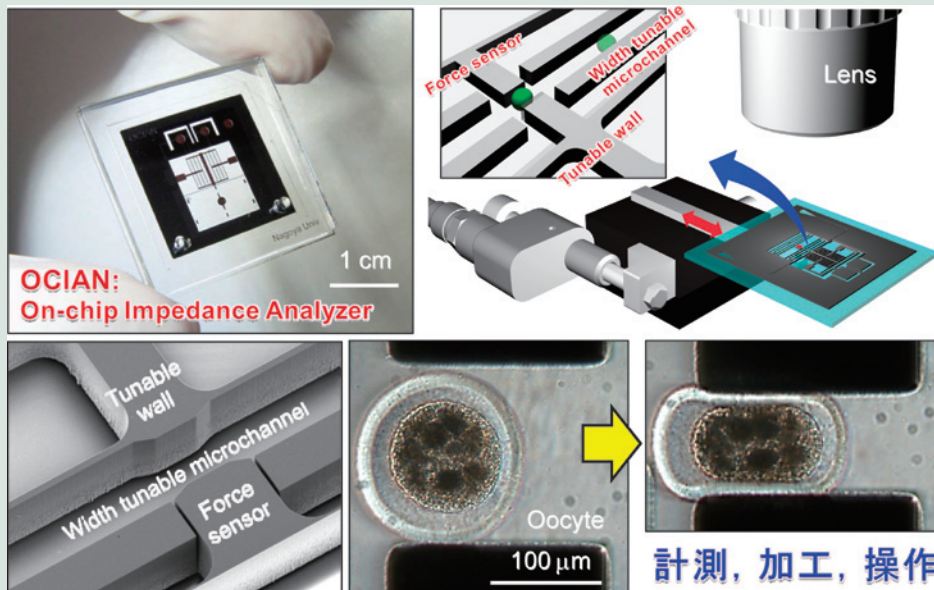


図2 オンチップ・インピーダンスアナライザ：マイクロ流体チップ内部に微小駆動機構とセンサ（静電力センサ、電気化学センサなど）を組み込んで、細胞などの微粒子のマルチパラメータを連続的に計測する。機構先端は200 nm の位置決め精度を達成し、mN オーダーのハイパワー出力が可能。卵子の除核や細胞のマルチソーターなどにも応用できる。

研究してきました（1999年～）。図1にオンチップロボットの例を示します。磁気駆動により、位置決め精度1 μm 、応答周波数90Hz、出力mNを達成しており、このクラスでは世界最高性能を誇ります。例えばウシ卵子をたった2秒で精密に除核できます。

Micro-TASの特色は、マイクロ流体チップを使って流れを活用する点にあるので、これにオンチップロボットによる力学的操作機能を加えることで、両者のメリットを活かした新機能・ブレークスルーが期待できます。例えば、マイクロ流体チップに物理的操作技術を導入することで、細胞

などの力計測のキャリブレーションから、環境制御、計測、分離、個別培養に至るまでの一連の作業を連続的に行えます。また、一貫してオンチップで行うことで、コンタミの影響を受けにくく、フロー系で行うことで高速化と大量解析が可能となります。図2は細胞のマルチパラメータを連続的に計測する目的で開発したOCIAN（On-chip Impedance Analyzer）です。細胞の硬さ指標を超高速に計測できます。細胞の機械的特性を超高速に測ることで、SPM（Scanning Probe Microscope）やセルソーターに替わり、新しい計測分野が拓かれると期待しています。

1963年生まれ。1989年に企業を退職して名古屋大学工学部の助手となる。1993年博士（工学）。2005年東北大学教授。2010年名古屋大学大学院工学研究科教授。現在に至る。MEMSとナノテクノロジーを基盤とするロボティクス・メカトロニクスが専門。モットー：面白いことにチャレンジ。これを機会に共同研究できれば幸いです。

あらい ふみひと



37. 理学南館



理学南館は、理学部全体の拠点となる300人収容の講堂を含む研究・実験施設です。

敷地は周辺を既存施設に取り囲まれた理学部エリアの中心であり、また敷地南側には工学部エリアと理学部エリアを結ぶメインストリートが整備され、学内外からの多くの人の流れが生まれる主要な軸線となっています。こうしたキャンパスマスタープランとの一体的な整備を図るため、1階を理学部全体の研究・交流空間と位置づけ、講堂、セミナー室、会議室等の公共性の高い機能を集約させています。メインストリートと平行する東西方向に配置された300人収容の講堂は、通常の講義室としてだけでなく、国際的なシンポジウムや研究発表の場として幅広く利用することが可能であり、ガラスカーテンウォールを通して外からも中の活動が見通せる開かれた研究活動の場を

つくっています。またエントランスホールとの一体的な利用が可能なセミナー室、学内外からの研究者が集う会議室など、理学部の新たな拠点施設として様々な活動に柔軟に対応できる研究・交流空間を実現するとともに、車椅子での利用にも十分に配慮し、施設全体を段差なく移動できるユニバーサルスペースとしています。メインストリートから直接アプローチすることができる講堂屋上のルーフトラスは緑化整備を行い、研究活動の合間に誰もが利用できる落ち着いた休憩スペースとなり、交流空間全体に立体的な回遊性を生んでいます。また、隣接する理農館とは渡り廊下によって結ばれ、野依記念物質科学研究館や理学館を含めたエリア全体のスムーズな連携が可能な動線計画となっています。

本建物の2階から5階は生命理学分野の実験・



■建築概要

建物名称：理学南館
 主要用途：大学・研究施設
 建築面積：1210.993 m²
 延床面積：3960.635 m²
 階数：地上5階／地下1階
 構造：RC造及び一部S造



1	2	5	8
3	4	6	7

- 1 南側ファサード 南西より
- 2 メインストリート 東より
- 3 講堂
- 4 エントランスホール
+ セミナー室
- 5 南側ファサード 南東より
- 6 講堂屋上 ルーフテラス
- 7 プロジェクトスペース
- 8 西面 外装アルミルーバー

解析等を研究するフロアとして、最先端の研究を支える場にふさわしい機能性を追求しており、構造は耐力壁部以外は梁がないアンボンドPCスラブを採用し、また南北方向の外周部は逆梁とすることで、部屋割の変更や設備配管類の将来的な追加などにも柔軟に対応できるフレキシビリティの高いシステムを実現しています。その他階段室を利用したソーラーチムニーによる自然換気など様々な環境技術を導入し、生活環境の向上を図っています。

建物の表層は面ごとに異なるダブルスキンで構成しており、メインストリートに面する南面はアルミ格子材とガラス、路地状通路に面する西面は反射光を制御するアルミルーバー、東面は周辺施設の外装材と同じ中空セメント板を使用し、各環境条件に対応した素材を使い分け、熱負荷の軽減

と意匠性の両立を図っています。面ごとの素材を共通にしながら野依記念物質科学研究館まで連続する表層は、異分野の横断的研究・交流の象徴として表れています。



梅田 隆行
太陽地球環境研究所助教

スーパーコンピュータで太陽地球系科学に挑む

私たちが住む地球の遥か上空にある宇宙空間は何も無い真空ではなく「プラズマ」と呼ばれるガスによって満たされています。プラズマは気体の原子が電離して正の電荷を持つイオンと負の電荷を持つ電子に分かれた状態であり、固体・液体・気体の次に来る物質の第4の状態です。宇宙空間の全体積のうち、実に99.99%以上がプラズマで満たされており、プラズマの振る舞いを理解することは、私たちが存在する宇宙の本質的な理解に繋がります。プラズマの振る舞いは、荷電粒子の運動と電磁波の伝搬という、2つの単純な方程式で記述されます。しかし、荷電粒子の運動は電流を生じ、電流は電磁波を生じ、電磁波によって荷電粒子が加減速を受け更に電流を生むというフィードバックによって、プラズマの挙動は非常に複雑になります。

地球周辺の領域は太陽から噴出したプラズマと地球上空の大気が電離したプラズマ、そして太陽と地球の磁場が複雑に絡み合い、絶えず変化しています。地球周辺の電磁環境の変化は、時にオーロラなどの美しい自然現象を生みますが、私たちの今日の生活は人工衛星を利用した通信や測量に大きく依存するようになったために、電磁環境の乱れに非常に弱くなったと言えます。太陽地球系科学は、複雑なプラズマの挙動によって生じる電磁環境の変化を理解するとともに、激しい乱れを予測して防災に役立てるといった側面も持っています。

太陽地球環境の変化を理解するには、人工衛星や地上レーダーによる観測だけでは不十分であ

り、コンピュータ内に宇宙空間を作り出して数値実験（シミュレーション）を行うことも重要な研究手段です。コンピュータシミュレーションとは、既知の法則や経験則（モデル）にもとづいてコンピュータ内に作り出したシステムを発展させていく応用科学です。使用するコンピュータの性能によって、用いる法則の精度やモデルの複雑さが変わってくるため、名古屋大学に来年度導入される新しいスーパーコンピュータを用いて大規模な数値実験を行うことが、ここ数年の目標です。

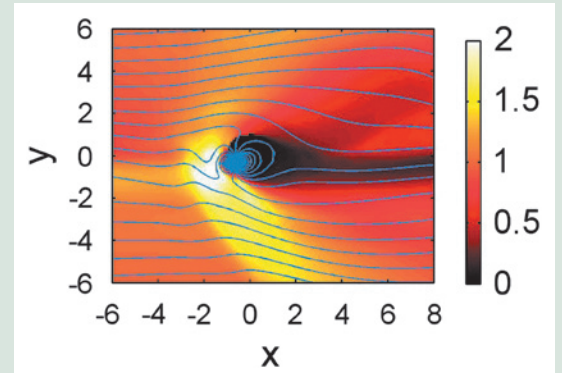


図2 コンピュータシミュレーションで再現した、太陽から噴き出した高速流プラズマ（太陽風）と小天体との相互作用。色はプラズマの密度を表し、紫の線は磁力線を表す。左側から入射した太陽風プラズマが天体にぶつかって衝撃波を形成し、天体の裏側には低密度領域が形成する。また、小天体が持つ弱い固有磁場によって太陽風が運ぶ磁場が歪められている。この結果は、宇宙プラズマの挙動を記述する方程式の中で近似が一切無いものを用いて得られた。しかし、現在のコンピュータでは半径10km ぐらいの小さな天体の2次元モデルを扱うのが限界である。



図1 太陽地球環境研究所のスーパーコンピュータ。大型冷蔵庫よりも大きな“箱”の中に市販のパソコンの10倍程度の性能を持つコンピュータが48台収納されている。

第7回国立大学保健医療学系代表者協議会を開催

●医学部保健学科

医学部保健学科は、6月4日(月)、名鉄ニューグランドホテルにおいて第7回国立大学保健医療学系代表者協議会を開催しました。同協議会は、年1回、全国の保健医療学系の国立大学の代表者が集い、教育・研究の諸問題や関連する重要事項を協議し、教育・研究環境等の発展に寄与することを目的としており、今年は本学を幹事校として開催



会場の様子

されました。岩瀬鎮男文部科学省高等教育局医学教育課課長補佐、石橋みゆき看護教育専門官の出席のもと、全国42大学から教員、事務職員合わせて113名が参加しました。

最初に、議長として榊原医学系研究科保健学統括専攻長を選出した後、18歳人口減少に伴う学生確保対策、大学院での専門医療職の人材育成、大学院課程の定員管理と質の保証などについて、活発な意見交換が行われました。最後に、岩瀬課長補佐が「最近の保健医療学系を取り巻く諸問題等について」と題し、講演を行いました。会議終了後には意見交換会が行われ、高橋医学系研究科長も参加し、和やかに終了しました。

前日の3日(日)には、同学科看護学専攻の主催により、同会の看護学分科会総会が開催され、62名が出席しました。石橋看護教育専門官が「大学における看護教育の動向」と題した講演を行い、総会では臨床指導者と大学との連携推進について意見が交わされました。

来年は、岡山大学を幹事校として開催される予定です。

ザ・プロフェッショナル・レクチャー「東日本大震災：対米国広報の現場」を開催

●大学院国際言語文化研究科

大学院国際言語文化研究科メディアプロフェッショナル・コースは、6月15日(金)、文系総合館において、外務省との共催で、ザ・プロフェッショナル・レクチャー「東日本大震災：対米国広報の現場」を開催しました。今回は、震災発生時に在米大使館で広報担当公使として活躍された、滝崎成樹外務省大臣官房人事課長を招き、中村登志哉



講演する滝崎課長

国際言語文化研究科教授を討論者として、濱口総長を含む本学教員や学生ら約70名が参加しました。

講演で滝崎課長は、日本の対米広報の最前線で、相手国市民への直接的説得である広報外交の立案・実行に当たられた貴重な経験を紹介しました。まず震災直後の時期には、藤崎駐米大使のテレビ出演等を通じて、事実を正確に広報することに広報外交の主眼を置き、次に状況が一定程度落ち着き始めた時期には、支援への感謝を表明する一方で、復活する日本のアピールに、その後は日米関係の発展と深化に、と力点を移した様子を説明しました。また、被災地の方による地場産業の復活の直接アピールなど、日本人の生の声で復興を訴える広報外交も模索したと話しました。

一方で、米メディアは「衰退する日本」という視点からの特集をすることが増え、反論に苦慮した経験も披露されました。広報外交に多大な予算を投入する新興国に比べ、日本は財政的制約から防戦に回っているものの、外交で最後に問われるのは、国としての実力だと強調されました。

開設から9年間に報道・広報分野に多くの修了生を輩出してきた同コースは、研究面に加え人材供給面で、外務省とも協力関係の深化に努めたいと考えています。

金環日食観望会 in 名大「見上げよう、太陽と月のめぐり逢い」を開催

●太陽地球環境研究所

太陽地球環境研究所は、5月21日(月)、東山キャンパスのグリーンベルト東側において、金環日食観望会 in 名大「見上げよう、太陽と月のめぐり逢い」を開催しました。これは、学生団体 NUMAP が中心となって行われたもので、事前に予約していた約200名を含む本学関係者など約400名が、キャンパス内で世紀の天体ショーを楽しみました。



会場の様子

早朝には空が広く雲に覆われていましたが、金環日食開始の5分前から突然晴天が広がり、金環日食の瞬間には会場から大きな拍手と歓声がわき起こりました。予約枠が数日で埋まるなど市民の高い関心がうかがわれた一方で、強力な太陽光により目の障害が発生することが予想されたため、予約者全員に太陽観察メガネを配布し、場内アナウンスで安全な観察法を周知するなどの安全対策に努めました。

会場内には多くのブースを設置し、学生スタッフが複数の望遠鏡による観測、日食のシミュレーション、温度・照度の公開実験、日本史における日食の記述の紹介など、様々な切り口で参加者に解説をしました。併せて研究普及活動を学生が行うことの捉えられ方や、イベントの効果を検証するためのアンケート調査も実施しました。

参加者からは宇宙や科学に対する関心がいっそう高まったという声が多くありました。

NUMAP は本学の研究成果を広く市民に伝える社会貢献活動を行っており、6月には金星太陽面通過の観望会も実施しました。今後も研究普及活動を展開していく予定です。

国際環境人材育成プログラム合宿研修を実施

●国際環境人材育成センター

国際環境人材育成センターは、6月1日(金)、2(土)の2日間、国際環境人材育成プログラム (NUGELP) 合宿研修を実施しました。

NUGELP は、大学院工学研究科博士課程前期課程もしくは大学院環境学研究科博士課程前期及び後期課程の学生を対象とし、カリキュラムが全て英語で実施されるプロ

ラムで、2009年度より学生を受け入れています。所属する学生の3分の2を留学生が占めており、国際的に活躍できる環境分野のリーダーの育成に努めています。カリキュラムは生物多様性保全、地球温暖化、水・廃棄物対策の3つを柱にしており、これらのテーマに沿って年2回の国内合宿研修を行っています。

今回の合宿研修は、環境とエネルギーについてより深く学ぶため、昨年の震災以来の社会情勢を踏まえて「発電の未来:再生可能エネルギーとスマートグリッド」というテーマで実施され、その一環として火力と太陽光発電施設を併設する中部電力武豊発電所を訪れました。このほかにも、三重県のウィンドパーク笠取(風力発電)や川越火力発電所(LNG火力発電)、豊田市で行われているスマートハウス実証実験を視察し、従来の発電方法に加えて未来の発電の課題と可能性について学びました。

今回訪れた愛知県知多郡武豊町の「メガソーラーたけとよ」では、大学院環境学研究科博士課程前期課程2年生でマラウイ出身のクララ・チダンモジさんが、同施設の発電出力7,500kWと同数の7,500人目の訪問者となり、当日行われた記念式典に参加し、記念品を受け取りました。



メガソーラーたけとよの記念式典の様子

第25回トークサロン「ふみよむゆふべ」を開催

●附属図書館

附属図書館は、6月5日(火)、同館5階多目的室において、第25回友の会トークサロン「ふみよむゆふべ」を開催しました。

今回は、吉川卓治教育発達科学研究科教授による「百年前の世界一周-佐多愛彦『歐米大學之視察』を中心に-」と題した講演が行われ、学内外から39名の参加がありました。



講演する吉川教授

講演では、今からちょうど百年前、1912年7月から1913年6月の約1年をかけて、欧米各国の大学を視察した佐多氏の見聞録『歐米大學之視察』を中心に、当時の各国の大学事情について説明がありました。

その中で、当時大阪府立医学校(大阪大学医学部の前身)の校長であった佐多氏は、「医育統一論」を提唱して医学校の大学昇格運動を展開しており、この視察でも、これまでの視察者が各国の大規模大学のみを見て、それに合わせようとしていると批判し、『歐米大學之視察』では有名大学の医学部について「見るべきものはない」と評したり、逆に小規模の医科大学に「大いに参考になる」との意見を述べているといったエピソードが紹介されました。

また、これらの活動により、大阪府立医学校の府立医科大学への昇格を実現し、大学令制定など当時の大学制度改革に影響を与えたことが説明されました。

参加者からは、「世界一周を切り口に、佐多氏の独自性を知ることができた」、「医学部の歴史の一端がよくわかった」、「写真があり当時をイメージしやすい内容だった」などの感想が寄せられました。

第45回博物館コンサートを開催

●博物館

博物館は、5月26日(土)、同館展示室において、第45回博物館コンサート(NUMCo)を開催しました。

今回は、ベネズエラ音楽が演奏される予定でしたが、出演者の都合により中止となり、急遽“EBLA座”と“Riko's friends”の2グループが出演することとなりました。

前半は“EBLA座”が演奏を行い、ピアノと歌とベー



コンサートの様子

スによるジャズ調やポップス調のゴスペル全6曲を披露しました。

後半は正統派のゴスペル聖歌隊である“Riko's friends”が、映画「天使のラブソングを…」の挿入歌で有名な『Oh happy day』を始め全6曲を合唱しました。演奏者と195名の観客が一体となって、指を鳴らしたり、手で拍子を取ったりと、楽しく、迫力のある1時間となりました。

今回で45回目を迎えたコンサートも回を重ねるに従ってファンが増え、コンサートのために良い席を確保してから、ゆっくり展示を見てまわるといった方が数多くいました。

受賞者一覧

褒章関係

受章日	受賞名	受賞者の所属・職名	受賞者	備考
H24. 3.28	紺綬褒章	名誉教授・特別教授	赤崎 勇	
H24. 4. 5	日本農学賞（読売農学賞）	大学院生命農学研究科教授	生源寺真一	
H24. 4.17	文部科学大臣表彰 若手科学賞	大学院工学研究科准教授	佐藤浩太郎	
H24. 4.17	文部科学大臣表彰 若手科学賞	減災連携研究センター 准教授	廣井 悠	
H24. 4.29	春の叙勲 瑞宝大綬章	名誉教授	松尾 稔	
H24. 4.29	春の叙勲 瑞宝中綬章	名誉教授	穂積 和夫	
H24. 4.29	春の叙勲 瑞宝中綬章	名誉教授	野本 久夫	
H24. 4.29	春の叙勲 瑞宝中綬章	名誉教授	藤瀬 浩司	
H24. 4.29	紫綬褒章	大学院理学研究科教授	松本 邦弘	
H24. 4.29	瑞宝双光章	元工学部事務部長	近藤 心正	
H24. 4.29	瑞宝単光章	元医学部・医学系研究科 経理課機械保守工	植村 茂	
H24. 4.29	瑞宝中綬章	名誉教授	穂積 和夫	
H24. 5.18	厚生労働大臣表彰	大学院医学系研究科 看護学専攻教授	鈴木 和代	
H24. 6. 4	日本学士院賞	大学院経済学研究科教授	中西 聡	

教員

受賞日	受賞名	受賞者の所属・職名	受賞者	備考
H23.10.24	平成23年度日本生化学会奨励賞	大学院医学系研究科 特任准教授	内村 健治	
H23.11.10	土木学会 平成23年度全国大会 第66回年次学術講演会 優秀講演者	大学院工学研究科准教授	判治 剛	
H23.11.17	日本鋼構造協会 鋼構造シンポジウム2011 アカデミーセッション 優秀論文発表	大学院工学研究科准教授	判治 剛	
H23.12. 5	新道路技術会議 優秀技術研究開発賞	大学院工学研究科教授	中村 光	
H23.12.25	第12回計測自動制御学会 システムインテグ レーション部門講演会 SI2011優秀講演 (軌道学習とパラメータ調整による受動歩行 ロボットの歩容遷移)	大学院工学研究科准教授	藤本 健治	
H24. 2. 4	広島大学体育会同窓会 皇賞	大学院工学研究科教授	宮崎 誠一	
H24. 2.17	有機合成化学協会 日本触媒研究企画賞	大学院工学研究科准教授	波多野 学	
H24. 2.18	日本流体力学会 2011年度 論文賞	大学院工学研究科教授	金田 行雄	
H24. 2.18	日本流体力学会 2011年度 論文賞	大学院工学研究科准教授	石原 卓	
H24. 2.18	日本流体力学会 フェロー	大学院多元数理科学研究科 教授	木村 芳文	
H24. 3. 4	ISPlasma2012 Best Poster Presentation Award	大学院工学研究科助教	牧原 克典	宮崎誠一（大学院工学研究科教授）と連名
H24. 3. 8	名古屋大学 赤崎賞	大学院工学研究科講師	樫田 啓	
H24. 3. 8	James A. and Faith Miller Memorial Fund (Research Award from the Marine Biological Laboratory, USA)	大学院理学研究科教授	五島 剛太	
H24. 3.15	精密工学会 精密工学会沼田記念論文賞	大学院工学研究科教授	社本 英二	鈴木教和（大学院工学研究科准教授）と 連名
H24. 3.15	応用物理学会 講演奨励賞	大学院工学研究科助教	牧原 克典	
H24. 3.17	日本統合失調症学会学術賞一般演題賞奨励賞	大学院医学系研究科准教授	永井 拓	
H24. 3.19	平成23年度日本生物物理学会中部支部講演会 最優秀発表賞金賞	大学院理学研究科助教	村上 緑	
H24. 3.20	日本原子力学会 第44回日本原子力学会賞	大学院工学研究科教授	山澤 弘実	
H24. 3.21	電子情報通信学会 功労感謝状	大学院工学研究科助教	赤池 宏之	
H24. 3.25	日本化学会 若い世代の特別講演会（第26回） 講演賞	大学院工学研究科准教授	波多野 学	

受賞者一覧

受賞日	受賞名	受賞者の所属・職名	受賞者	備考
H24. 3.26	日本化学会 若い世代の特別講演会（第26回）講演賞	大学院工学研究科助教	ウヌヤク ムハメット	
H24. 3.27	日本数学会代数学分科会代数学賞	大学院多元数理科学研究科教授	金銅 誠之	
H24. 3.27	第26回若い世代の特別講演会講演者賞	大学院理学研究科准教授	山口潤一郎	
H24. 3.27	第6回（2012年）日本物理学会若手奨励賞	大学院理学研究科講師	清水 康弘	
H24. 3.29	2012 Outstanding Service Award, IEEE Communication Society Technical Committee on Power Line Communications	エコトピア科学研究所教授	片山 正昭	
H24. 4.11	溶接学会 平成23年度溶接学会論文奨励賞	大学院工学研究科准教授	判治 剛	
H24. 4.12	日本化学会 優秀講演賞（学術）	大学院工学研究科助教	安井 隆雄	
H24. 4.13	日本航空宇宙学会 第21回日本航空宇宙学会論文賞	大学院工学研究科教授	山田 克彦	
H24. 4.14	船井情報科学振興財団 平成23年度船井研究奨励賞	大学院工学研究科助教	山田 崇恭	
H24. 4.15	第71回日本医学放射線学会総会 Cypos 賞 Silver Medal	医学部附属病院准教授	佐竹 弘子	
H24. 4.21	第85回日本内分泌学会学術総会 若手研究奨励賞	医学部附属病院助教	森下 啓明	大磯ユタカ（大学院医学系研究科教授）、有馬 寛（大学院医学系研究科准教授）、他6名と連名
H24. 4.23	日本機械学会 機素潤滑設計分野 業績賞	大学院工学研究科教授	梅原 徳次	
H24. 4.28	日本病理学会100周年記念病理学研究新人賞	大学院医学系研究科 客員研究者	永井 裕崇	
H24. 5.16	日本化学会 第92春季年会（2012）優秀講演賞（産業）	革新ナノバイオデバイス研究センター特任講師	岡本 行広	
H24. 5.17	2012年度春季韓国材料学会 バイオ材料部門 優秀発表論文賞	大学院工学研究科助教	金 日龍	大槻主税（大学院工学研究科教授）、菊田浩一（大学院工学研究科准教授）と連名
H24. 5.18	東海化学工業会 東海化学工業賞	大学院工学研究科助教	森 隆昌	
H24. 5.24	第68回電気学術振興賞論文賞	大学院工学研究科教授	大久保 仁	
H24. 5.24	第68回電気学術振興賞論文賞	エコトピア科学研究所 寄附研究部門准教授	小島 寛樹	
H24. 5.25	新化学技術推進協会 新化学技術研究奨励賞	大学院工学研究科准教授	太田 裕道	
H24. 5.26	2012年度都市住宅学会賞論説賞	減災連携研究センター 准教授	廣井 悠	
H24. 6.14	JSAI SIG Research Award 2011 工知能学会研究会優秀賞	大学院情報科学研究科 研究員	榎堀 優	間瀬健二（大学院情報科学研究科教授）と連名

学生

受賞日	受賞名	受賞者の所属・学年	受賞者	備考
H23. 7. 9	日本アイソトープ協会 平成23年度「エンライトニングセミナー」優秀賞	大学院工学研究科 M1	坂本 知佳	
H23.10. 5	IMQA Best Student Award	大学院情報科学研究科 M2	堀 弘樹	宮尾 克（大学院情報科学研究科教授）、塩見友樹（大学院情報科学研究科 D2）、上本啓太（大学院情報科学研究科 M1）と連名
H23.11.10	土木学会 平成23年度全国大会 第66回年次学術講演会	大学院工学研究科 M1	杉本 勝哉	
H23.12. 6	日本原子力学会 第43回日本原子力学会中部支部研究発表会 平成23年度日本原子力学会中部支部 奨励賞	工学部 B4	高橋 時音	
H23.12.12	資源・素材学会関西支部 平成23年度第8回「若手研究者・学生のための研究発表会」優秀発表賞	大学院工学研究科 M1	船橋 政志	藤澤敏治（大学院工学研究科教授）、佐野浩行（大学院工学研究科助教）と連名

受賞者一覧

受賞日	受賞名	受賞者の所属・学年	受賞者	備考
H23.12.16	日本計算数理工学会 計算数理工学会シンポジウム2011 日本計算数理工学会講演賞	大学院工学研究科 D3	藤井雅留太	松本敏郎 (大学院工学研究科教授)、 高橋 徹 (大学院工学研究科講師)、 山田崇恭 (大学院工学研究科助教)、 松田 仁 (大学院工学研究科 M1) と連名
H23.12.25	第12回計測自動制御学会 システムインテグ レーション部門講演会 SI2011優秀講演 (母関数を用いた最適制御の解法と最適歩容の生成)	大学院工学研究科 D1	ハオ ジウェイ	藤本健治 (大学院工学研究科准教授) と 連名
H24. 1. 9	日本放射光学会年会 第25回日本放射光学会年会・放射光科学 合同シンポジウム 学生発表賞	大学院工学研究科 M2	小川 古都	
H24. 1.23	電気学会東海支部 電気学会優秀論文発表賞 B 賞	大学院工学研究科 M2	加藤 史彦	
H24. 1.23	電気学会東海支部 電気学会優秀論文発表賞 B 賞	大学院工学研究科 M2	鈴木 啓介	
H24. 2.22	計測自動制御学会 第1回コンピューテーショ ナル・インテリジェンス研究会 2011年度計測自動制御学会学術奨励賞 研究奨励賞	大学院工学研究科 D3	ファン ミン トゥン	
2012. 2.28	Second Prize Paper in 2011 Best Article Award of International Journal of Urban Sciences	大学院環境学研究科 D3	王 運静	
H24. 3. 1	電気学会東海支部 電気学会東海支部長賞	工学部 B4	西町誠一郎	
H24. 3. 4	東海社会学会2011年度優秀修士論文研究表彰	大学院教育発達科学研究科 M2	都島 梨紗	
H24. 3. 5	日本材料学会東海支部 第6回学術講演会 優秀講演賞	大学院工学研究科 M1	李 虎	
H24. 3. 8	情報処理学会 第74回全国大会学生セッション 学生奨励賞	大学院工学研究科 M1	正井 宏明	
H24. 3. 8	動的画像処理実利用化ワークショップ DIA2012 研究奨励賞	大学院情報科学研究科 M2	中村 彰吾	出口大輔 (情報連携統括本部情報戦略室 准教授)、井手一郎 (大学院情報科学研究科 准教授)、村瀬 洋 (大学院情報科学研究科 教授) と連名
H24. 3. 8	動的画像処理実利用化ワークショップ DIA2012 研究奨励賞	大学院情報科学研究科 M2	若山 雅史	出口大輔 (情報連携統括本部 情報戦略室 准教授)、井手一郎 (大学院情報科学研究科 准教授)、村瀬 洋 (大学院情報科学研究科 教授)、他1名と連名
H24. 3.10	日本オペレーションズ・リサーチ学会 最優秀賞	大学院情報科学研究科 M2	山崎 洋祐	
H24. 3.12	電子情報通信学会 フォトニックネットワーク研究会 2011年フォトニックネットワーク若手研究賞	大学院工学研究科 D3	山田 祥之	
H24. 3.13	フォトニックネットワーク研究会 第7回フォトニックネットワーク研究会学生 ワークショップ 優秀賞	大学院工学研究科 M1	蜂須賀悠介	
H24. 3.15	日本機械学会東海支部 日本機械学会東海支部賞 奨励賞	大学院工学研究科 D2	常吉 孝治	
H24. 3.17	第76回日本循環器学会学術集会 国際留学生 Young Investigator's Award	大学院医学系研究科 D3	胡 麗娜	成 憲武 (大学院医学系研究科特任講師)、 室原豊明 (大学院医学系研究科教授)、 葛谷雅文 (大学院医学系研究科教授)、 他4名と連名
H24. 3.21	電子情報通信学会 平成23年度学術奨励賞	大学院情報科学研究科 M1	吉田 英史	出口大輔 (情報連携統括本部情報戦略室 准教授)、井手一郎 (大学院情報科学研究科 准教授)、村瀬 洋 (大学院情報科学研究科 教授) と連名
H24. 3.22	電子情報通信学会 2012年総合大会 ISS 企画 学生ポスターセッション 優秀ポスター賞	大学院工学研究科 M1	正井 宏明	
H24. 3.26	日本化学会 日本化学会東海支部長賞	大学院工学研究科 M2	近藤 展代	
H24. 3.26	応化会賞	大学院工学研究科 M2	佐野 誠実	
H24. 3.26	日本化学会 日本化学会東海支部長賞	大学院工学研究科 M2	澤村 泰弘	
H24. 3.26	日本化学会 日本化学会東海支部長賞	工学部 B4	岩附 紘子	
H24. 3.26	名古屋大学工学部 化学・生物工学科 生物機能工学コース学士論文発表会 優秀賞	工学部 B4	永田 大	
H24. 3.29	第56回日本応用動物昆虫学会大会 ポスター賞	大学院生命農学研究科 D3	小舟 瞬	梶村 恒 (大学院生命農学研究科准教授)、 他1名と連名

受賞者一覧

受賞日	受賞名	受賞者の所属・学年	受賞者	備考
H24. 3.31	日本薬学会 第132年会学生優秀発表賞	大学院医学系研究科 D3	水野 智博	
H24. 4.12	日本化学会 第92春季年会 学生講演賞	大学院理学研究科 D3	川澄 克光	
H24. 4.12	日本化学会 第92春季年会 学生講演賞	大学院理学研究科 D3	デバシス マン ダル	
H24. 4.12	日本化学会 第92春季年会 学生講演賞	大学院工学研究科 D3	内藤 豊裕	
H24. 4.12	日本化学会 第92春季年会 学生講演賞	大学院工学研究科 D3	安井 猛	
H24. 4.12	日本化学会 第92春季年会 学生講演賞	大学院工学研究科 D2	山田 浩貴	
H24. 4.13	日本航空宇宙学会 第43回期年会講演会 学生優秀講演賞	大学院工学研究科 M2	波多野高斗	
H24. 4.13	平成24年度 日本植物病理学会 学生優秀発表賞	大学院生命農学研究科 M1	大津 美奈	
H24. 4.13	平成24年度 日本植物病理学会 学生優秀発表賞	大学院生命農学研究科 D3	柴田 裕介	
H24. 4.15	第68回日本放射線技術学会総会学術大会 銅賞	大学院医学研究科 M2	近藤 晋平	
H24. 4.15	第68回日本放射線技術学会総会学術大会 銅賞	大学院医学研究科 M2	林 大貴	
H24. 4.15	第68回日本放射線技術学会総会学術大会 学生賞	大学院医学研究科 M2	近藤 晋平	
H24. 4.15	第68回日本放射線技術学会総会学術大会 最優 秀学生賞	大学院医学研究科 M2	林 大貴	
H24. 4.20	日本機械学会 日本機械学会賞	大学院工学研究科 D3	亀谷 知宏	松田 佑 (大学院工学研究科助教)、 山口浩樹 (大学院工学研究科講師)、 新美智秀 (大学院工学研究科教授) と連名
H24. 4.28	第101回日本病理学会総会学部学生ポスター発表 優秀賞	医学部 4年	酒井 晃太	
H24. 5.10	平成23年度電子情報通信学会 ソフトウェアサイエンス研究会研究奨励賞	大学院情報科学研究科 M2	日野 善信	酒井正彦 (大学院情報科学研究科教授)、 坂部俊樹 (大学院情報科学研究科教授)、 草刈圭一朗 (大学院情報科学研究科 准教授)、他 1名と連名
H24. 5.10	平成23年度電子情報通信学会 ソフトウェアサイエンス研究会研究奨励賞	大学院情報科学研究科 M1	坂井 利光	酒井正彦 (大学院情報科学研究科教授)、 坂部俊樹 (大学院情報科学研究科教授)、 西田直樹 (大学院情報科学研究科助教)、 他 1名と連名
H24. 5.14	平成23年度情報処理学会東海支部 学生論文奨励賞	大学院情報科学研究科 D3	柴田 誠也	
H24. 5.14	平成23年度情報処理学会東海支部 学生論文奨励賞	大学院情報科学研究科 D3	陳 暘	
H24. 5.14	平成23年度情報処理学会東海支部 学生論文奨励賞	大学院情報科学研究科 D3	小澤 俊介	
H24. 5.14	土木学会中部支部 平成23年度土木学会 中部支部優秀研究発表賞	大学院工学研究科 M1	海野 貴裕	
H24. 5.17	2012年度春季韓国材料学会 バイオ材料部門 優秀発表論文賞	大学院工学研究科 D2	申 義燮	金 日龍 (大学院工学研究科助教)、 大槻主税 (大学院工学研究科教授) と連名
H24. 5.17	PRMU 研究奨励賞	大学院情報科学研究科 D3	井尻 善久	
H24. 5.18	Symposium on Molecular Chirality ASIA 2012 Best Poster Award	大学院工学研究科 M1	田邊 純樹	
H24. 5.23	地球電磁気・地球惑星圏学会 学生発表賞 (オーロラメダル)	大学院理学研究科 D2	原 拓也	
H24. 5.23	地球電磁気・地球惑星圏学会 学生発表賞 (オーロラメダル)	大学院工学研究科 D1	福島 大祐	
H24. 6. 7	Distinguished Student Paper Award of the 2012 SID International Symposium	大学院情報科学研究科 D3	塩見 友樹	宮尾 克 (大学院情報科学研究科教授)、 堀 弘樹 (大学院情報科学研究科 M2)、 上本啓太 (大学院情報科学研究科 M2) と 連名

* 受賞者の所属・職名又は学年は、受賞当時

本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成24年5月16日～6月15日]

記事	月日	新聞等名
1 日本病院薬剤師会が院内製剤の指針を作成することに関して長尾能雅医学部附属病院教授は「院内製剤は安全性の観点から言えば最小限にした方がいい」と語る	5.16 (水)	読売
2 愛知県防災会議地震部会が開催され山岡耕春環境学研究所教授が担当する、地層から過去の津波を探る調査の途中経過が報告された	5.16 (水)	朝日 (朝刊)
3 田島宏康太陽地球環境研究所教授らの研究グループは中部地方の航空宇宙関連の中小企業グループ MASTT と共同開発している小型人工衛星の試作機を公開、今年12月にロシアから打ち上げると発表	5.17 (木)	中日 (朝刊) 他5社 日刊工業
4 紙つづて：イチローに学ぶ 篠原久典理学研究科長	5.17 (木)	中日 (夕刊)
5 科学と技術：故上田良二氏の発言を東京大学名誉教授和田昭允氏が紹介する	5.17 (木)	日経 (夕刊)
6 笠原竜四郎理学研究科研究員らのグループは被子植物が一度受精に失敗しても二度目を試みることを突き止めた	5.18 (金)	中日 (朝刊)
	5.20 (日)	読売
	5.22 (火)	毎日 (朝刊)
7 第16回博物館特別展「大モンゴル展」開催：～8月31日	5.18 (金)	中日 (朝刊)
8 大内乗有医学系研究科寄附講座教授らの研究グループは心筋梗塞を抑制するホルモンを特定した	5.19 (土)	日経 (夕刊)
	5.20 (日)	毎日 (朝刊)
9 スポーツを考える：内田 良教育発達科学研究科准教授 運動部活動や体育授業中のスポーツ事故調査について語る	5.19 (土)	毎日 (夕刊)
10 著書：アダム・スミス 法学講義 1762～1763 水田 洋本学名誉教授	5.19 (土)	毎日 (夕刊)
11 ハローお仕事：太陽地球環境研究所の根気強く観測に取り組む姿が紹介される	5.20 (日)	中日 (朝刊)
12 現代日本誤百科 (620)：「風が寒い」町田 健文学研究科教授	5.21 (月)	中日 (朝刊)
13 児童相談所の組織拡充により発足した名古屋市中央児童相談所児童虐待緊急介入班の主幹を務める山口 健氏本学卒業生は班の意義・活動について語る	5.21 (月)	毎日 (朝刊)
14 本学の学生グループ NUMAP が金環日食観望会を開催、市民や学生200人が参加	5.21 (月)	日経 (夕刊)
	5.22 (火)	朝日 (夕刊)
	5.22 (火)	中日 (朝刊)
15 花井陽介革新ナノバイオデバイス研究センター研究員らはパナソニックと共同で尿臭で肺がんを識別する技術を開発	5.22 (火)	日経 (朝刊)
16 現代日本誤百科 (621)：私にとって「疎遠な料理」町田 健文学研究科教授	5.22 (火)	中日 (朝刊)
17 アジア・大洋州地球科学会アックスフォードメダル受賞 上出洋介本学名誉教授	5.22 (火)	中日 (朝刊)
18 篠原久典理学研究科長らの研究グループは球状の炭素分子「フラレーン」生成の仕組みを解明	5.23 (水)	中日 (朝刊)
	5.24 (木)	読売
19 妊婦の体重管理に関して、玉腰浩司医学系研究科教授の出生時の体重が少ないほど高血圧の割合が高い傾向にあるとの調査が取り上げられる	5.23 (水)	朝日 (朝刊)
20 名古屋市が不育症の相談窓口を設置したことに関して医学部附属病院の愛知県不妊・不育専門相談センターが紹介される	5.23 (水)	朝日 (朝刊)
21 市民公開講座「整形外科で扱う腫瘍とは」：6月16日開催 西田佳弘医学系研究科准教授が講演	5.23 (水)	中日 (朝刊)
22 愛知県の国際化戦略について話し合う「第1回あいち国際戦略会議」が開催され、鮎京理事が議長を務めた	5.24 (木)	中日 (朝刊)
		中部経済
23 現代日本誤百科 (623)：「相手を信じるしかない論理」町田 健文学研究科教授	5.24 (木)	中日 (朝刊)
24 第21回理学懇話会開催：6月9日 森 郁恵理学研究科教授、上川内あづさ同教授が講演	5.24 (木)	中日 (朝刊)
25 博物館特別講演会「北東アジアにおけるチベット仏教世界の近代」開催：6月2日	5.24 (木)	中日 (朝刊)
	6. 1 (金)	読売
26 最前線現場：医学部附属病院の術中MRI が取り上げられる	5.24 (木)	日経 (夕刊)
27 紙つづて：研究者の執念 篠原久典理学研究科長	5.24 (木)	中日 (夕刊)
28 2011年度国内の大学特許資産規模ランキングで本学は5位	5.24 (木)	日経 (夕刊)
29 澤 博工学研究科教授ほかの研究グループは乱れに強い量子液体状態を示す銅酸化物磁性体を発見	5.25 (金)	日刊工業
30 本学ほか研究型11大学で構成するRU11の11学長は大学の研究・教育の持続可能性確立に向けた提言「我が国のサステナブルな成長に貢献するRU11」をまとめた	5.25 (金)	日刊工業
31 名大カフェ“Science, and Me”第23回「日本発！ヨウ素を使った緑の合成化学—ものづくりと環境技術—」開催：6月6日 石原一彰工学研究科教授が講演	5.26 (土)	中日 (朝刊)
32 ナゾ・謎・かがく 日本で起こりうる最大の地震は？：古本宗充環境学研究所教授は「琉球から東海にかけて超巨大地震の可能性があると話す	5.27 (日)	日経 (朝刊)
33 現代日本誤百科 (624)：あそこまでの「距離を行く」町田 健文学研究科教授	5.28 (月)	中日 (朝刊)
34 朝日カルチャーセンター新講座「最新素粒子講座」開催：7月28日～ 杉山 直理学研究科教授、久野純治同教授、伊藤好孝太陽地球環境研究所教授、飯嶋 徹現象解析研究センター教授、中村光廣同准教授、酒井忠勝理学研究科准教授が講師を務める	5.28 (月)	朝日 (朝刊)
35 ドナルド・マクドナルド・ハウスなごやを2013年10月に医学部附属病院内に開設するための募金を募っている	5.28 (月)	朝日 (朝刊)
36 世界禁煙デー：長谷川好規医学系研究科教授と室原豊明同教授が喫煙の害について提言	5.28 (月)	朝日 (朝刊)
37 本学学生ほか参加する「NAGOYA 学生キャンパス『ナゴ校』」が合同学園祭「NAGOYA 学生 EXPO2012」を開催する	5.29 (火)	読売
38 ミクロの探検隊「観察園のムシを電子顕微鏡で見よう」開催：6月16日	5.29 (火)	中日 (朝刊)


本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成24年5月16日～6月15日]

記事	月日	新聞等名
39 山内豊明医学系研究科教授はセントケア・ホールディング株式会社などがITを活用して在宅医療サービスの質の向上をはかるにあたり、基礎技術面での協力をする	5.29 (火)	日経 (夕刊)
40 愛知県内の高校生に大学教員が本格的な講義を行う「あいちの大学『学び』フォーラム (仮称)」開催を決定、杉山理事は「多様な形式を模索できるような内容で考えた方がよい」と語る	5.30 (水)	中日 (朝刊)
41 現代日本誤百科 (625) : 私の「気持ち」を侮辱した 町田 健文学研究科教授	5.30 (水)	中日 (朝刊)
42 坪木和久地球水循環研究センター教授と独立行政法人海洋研究開発機構などは巨大台風が上陸する数が60-70年後に温暖化で今の約4倍に増えると予測した	5.30 (水)	日経 (朝刊)
43 高橋雅英医学系研究科長、高岸麻紀同研究員らの研究グループはがん細胞転移の仕組みを解明	5.30 (水)	中日 (朝刊)
	5.31 (木)	読売
44 森川高行環境学研究科教授らは太陽光発電システムで電動アシスト自転車を充電し東山キャンパス構内で共同利用する実証実験を開始する	5.30 (水)	日経 (朝刊)
	5.31 (木)	中日 (朝刊)
	6. 7 (木)	日刊工業
45 現代日本誤百科 (626) : 誰でも「最初は初心者」 町田 健文学研究科教授	5.31 (木)	中日 (朝刊)
46 藤田保健衛生大学教授今泉和良氏本学卒業生がたばこの害やその防止について語る	5.31 (木)	読売
47 田岡一樹さんほか2名の本学学生が社会保障制度、及び社会保障と税の一体改革への不信について論じた	5.31 (木)	中日 (朝刊)
48 紙つづて: 科学と音楽の接点 篠原久典理学研究科長	5.31 (木)	中日 (夕刊)
49 体の快活度は: 大平英樹環境学研究科教授はパズルに取り組むことでその後数十分間、不快な気分や身体の興奮を抑える効果があると語る	5.31 (木)	朝日 (夕刊)
50 本学と三重大学、豊田工業大学の研究チームは小型電気自動車と無線通信を組み合わせた自動駐車システムを開発、鈴木達也工学研究科教授は「GPSなどと組み合わせ、より精度を高めたい」と話す	6. 1 (金)	日経 (朝刊)
	6. 8 (金)	中日 (朝刊)
		日刊工業
51 豊橋市自然史博物館で企画展「ノーベル賞を受賞した日本の科学者」が開催され、北村雅人創薬科学研究科教授、伊藤好孝太陽地球環境研究所教授、棚橋誠治基礎理論研究センター教授、大場裕一生命農学研究科助教がサイエンス・トークをする	6. 1 (金)	中日 (朝刊)
52 小田裕昭生命農学研究科准教授らの研究グループは不規則な食生活が肥満や糖尿病など生活習慣病につながる仕組みを解明	6. 2 (土)	毎日 (朝刊)
		他3社
53 この人: 鷺谷 威減災連携研究センター教授は日本地震学会の臨時委員会委員長を務め、今後は分かっていることも社会に伝えていく必要があると語る	6. 2 (土)	中日 (朝刊)
54 河合塾文化講演会「ヒトはなぜ夢をみるのか?」開催: 13日 澤田 誠環境医学研究所教授が講演	6. 2 (土)	中日 (朝刊)
55 あいち賢人: 門脇誠二博物館助教、加藤鉦治本学名誉教授が故奈良坂源一郎氏の徳川美術館への貢献について解説する	6. 2 (土)	中日 (朝刊)
56 さーくるつながる: 本学の学生グループ NUMAP (名古屋大学ミュージアム活性化プロジェクト) が紹介される	6. 2 (土)	中日 (夕刊)
57 本学の学生グループ NUMAP は6日に金星の日面通過観望会を開催	6. 2 (土)	中日 (朝刊)
	6. 4 (月)	中日 (朝刊)
	6. 5 (火)	中日 (夕刊)
	6. 7 (木)	中日 (朝刊)
58 本学などが参加する国際共同実験 OPERA のチームは再実験の結果、ニュートリノと光の速さに明確な差は出なかったことを第25回ニュートリノ・宇宙物理国際会議で報告する	6. 2 (土)	読売
	6. 3 (日)	朝日 (夕刊)
		日経 (朝刊)
		毎日 (朝刊)
59 ニュースを問う: 東海地震は予知できるのか? 福和伸夫減災連携研究センター教授、鷺谷 威同教授がコメントする	6. 3 (日)	中日 (朝刊)
60 増田公明太陽地球環境研究所准教授らの研究チームは屋久杉の年輪を分析した結果、8世紀に宇宙で大きな環境変動があったことを突き止めた	6. 4 (月)	朝日 (朝刊)
		他4社
61 祖父江 元医学系研究科教授、宮崎 雄医学部附属病院医員らの研究グループは球形髄性筋萎縮症の進行を抑止する治療法を確立	6. 4 (月)	中日 (朝刊)
		他3社
62 現代日本誤百科 (627) : 「この件に強い疑問をもって」いる 町田 健文学研究科教授	6. 4 (月)	中日 (朝刊)
63 現代日本誤百科 (628) : 「突然豹変」する 町田 健文学研究科教授	6. 5 (火)	中日 (朝刊)
64 本学などが参加する国際共同実験 OPERA のチームは第25回ニュートリノ・宇宙物理国際会議でニュートリノに質量があることをより確実に示す実験結果を得たことを発表	6. 5 (火)	朝日 (朝刊)
	6. 6 (水)	朝日 (夕刊)
		中日 (朝刊)
		毎日 (朝刊)
65 國枝秀世理学研究科教授ほか本学、愛媛大学、宇宙航空研究開発機構などの研究グループは2014年に打ち上げる次期天文衛星「ASTRO-H」に搭載する世界最高感度のエックス線望遠鏡を完成させた	6. 5 (火)	中日 (夕刊)
	6. 6 (水)	読売
66 現代日本誤百科 (629) : 「わらをもすがる」思い 町田 健文学研究科教授	6. 6 (水)	中日 (朝刊)
67 市民公開講座「認知症セミナー」開催: 7月15日 松尾清一医学部附属病院院長が挨拶、葛谷雅文医学系研究科教授が講演	6. 6 (水)	読売
	6. 9 (土)	
68 陸上部の鈴木亜由子さん本学経済学部3年生はロンドン五輪陸上の代表選考会を兼ねた日本選手権女子5000メートルに出場する	6. 7 (木)	読売
69 大学の発信力を強化しブランド力を高めるために大学出版部の設立が続いていることに関して本学の出版部は大学とは別の財団法人として活動していることが取り上げられる	6. 7 (木)	日経 (朝刊)
70 紙つづて: 発見と無我無心 篠原久典理学研究科長	6. 7 (木)	中日 (夕刊)
71 本学の研究チームは文化庁の助成を受け重要無形民俗文化財「花祭り」を記録する	6. 7 (木)	朝日 (夕刊)

本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成24年5月16日～6月15日]

記事	月日	新聞等名
72 篠原久典理学研究科長と首都大学東京のチームは「金属内包フラーレン」を素早く精製する技術を開発	6. 7 (木)	日経産業
73 地震学と防災：現在の地震学での想定を過信するのではなく地震学を役立てて適切な備えを 鷲谷 威減災連携研究センター教授	6. 8 (金)	毎日 (朝刊)
74 愛知学院大学モーニングセミナー開催：12日 隈本邦彦減災連携研究センター客員教授が「東日本大震災の災害報道と教訓―一次の大地震への備えは？」をテーマに講演	6. 8 (金)	中日 (朝刊)
75 第53回名大祭が東山キャンパスにて始まる	6. 8 (金)	中日 (朝刊)
76 株式会社共立総合研究所取締役副社長江口 忍氏本学卒業生は名古屋はバックアップキャピタルとして「リニア新幹線開業」、「東京との距離」で最適であると語る	6. 8 (金)	毎日 (朝刊)
77 本学などが参加する国際共同実験 OPERA のチームはニュートリノが光速を超えたとする発表を撤回。小松雅宏教養教育院准教授は記者会見で「発表前に気づけなかったことが残念」と話す。福井康雄理学研究科教授は「幅広い知識があれば今回のミスは防げたかもしれない」と訴える	6. 8 (金)	日経 (夕刊) 他3社
	6. 9 (土)	中日 (朝刊)
	6.10 (日)	読売
	6.12 (火)	中日 (朝刊)
	6.14 (木)	朝日 (朝刊)
78 秩父宮賜杯 第44回全日本大学駅伝対校選手権大会東海地区選考会開催：17日 本学陸上競技部が出場	6. 9 (土)	朝日 (朝刊)
79 博物館提供の化石などが名古屋市科学館特別展「OCEAN！海はモンスターでいっぱい」で展示される	6.10 (日)	読売
80 三重県の男児が医学部附属病院の医療ミスが原因で後遺症が残ったとして損害賠償を求める訴えを起こした	6.12 (火)	朝日 (朝刊)
	6.13 (水)	中日 (朝刊)
		毎日 (朝刊)
81 現代日本誤百科 (631)：「緑が芽吹く」町田 健文学研究科教授	6.12 (火)	中日 (朝刊)
82 本学は6月末をめどに学内の電力使用状況の推移をインターネットで公開する	6.12 (火)	日経 (朝刊)
83 防災心 火災の脅威：武村雅之減災連携研究センター寄附研究部門教授は「家を耐震化して地震で壊れないようにしなければ火災も防げない」と語る	6.12 (火)	朝日 (朝刊)
84 吉田久美情報科学研究科教授がアジサイの色について解説する	6.12 (火)	毎日 (朝刊)
85 中部大学教授山本 尚氏本学元教授が藤原賞を受賞	6.12 (火)	毎日 (朝刊)
86 本学が共催する防災・減災カレッジのキックオフイベントが16日に開催される	6.12 (火)	中日 (朝刊)
87 広告：「名古屋大学基金への寄附は Visa で支払えます。」	6.13 (水)	中日 (朝刊)
88 現代日本誤百科 (632)：「きめ細やか」町田 健文学研究科教授	6.13 (水)	中日 (朝刊)
89 ザ・プロフェッショナル・レクチャー「東日本大震災：対米国広報の現場」開催：15日	6.13 (水)	中日 (朝刊)
90 鈴木律朗医学系研究科寄附講座准教授らの研究グループはNK細胞リンパ腫の抗がん剤治療の前に血液検査で効果を予測できることを発見	6.14 (木)	中日 (朝刊)
91 現代日本誤百科 (633)：「後を引く味わい」町田 健文学研究科教授	6.14 (木)	中日 (朝刊)
92 日本保健物理学会市民公開シンポジウム開催：17日 IB 電子情報館大講義室で「放射能汚染と食の安全」をテーマに議論	6.14 (木)	中日 (朝刊)
93 豊田章一郎本学全学同窓会長は日本自動車会議所会長を退任	6.14 (木)	朝日 (朝刊)
	6.15 (金)	毎日 (朝刊)
94 江南厚生病院こども医療センター長尾崎隆男氏本学卒業生、愛知県小児科医会長北條泰男氏本学卒業生らは口タウウイルス胃腸炎について語る	6.14 (木)	中日 (朝刊)
95 紙つぶて：進化する走り 篠原久典理学研究科長	6.14 (木)	中日 (夕刊)
96 講演会「生きている化石と古生物学」開催：7月1日 大路樹生博物館教授が講師を務める	6.14 (木)	中日 (夕刊)
97 中国国営新華社通信は尖閣諸島購入計画に関し、日本政府が駐中国大使丹羽宇一郎氏本学卒業生を注意したことを批判する評論記事を配信	6.15 (金)	毎日 (朝刊)

イベントカレンダー

開催月日・場所・問い合わせ先等	内容
3月17日(土)～8月31日(金) 場 所：博物館展示室 時 間：10:00～16:00 休 館 日：日・月曜日、 8月11日(土)～14日(火) 入 場 料：無料	第16回博物館特別展「大モンゴル展」 [関連講演会] 場 所：博物館講義室 7月21日(土) 時 間：13:00～14:30 講演題目：「モンゴルの詩人たち―現代に息づくモンゴル詩の伝統と文化―」 講 演 者：阿比留美帆氏 (元駐モンゴル日本大使館専門調査員) 7月28日(土) 時 間：13:00～14:30 講演題目：「モンゴルの馬 馬頭琴伝説からみた馬の隠喩」 講 演 者：藤井真湖氏 (愛知淑徳大学准教授)
[問い合わせ先] 博物館事務室 052-789-5767	

開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

4月5日(木)～8月31日(金)

場 所：野外観察園展示室

時 間：10:00～16:00

休 館 日：土・日曜日、祝日

入 場 料：無料

博物館サテライト展示

「徒然の写真展－驚きのワンダーランド モンゴルー」



[問い合わせ先]

博物館事務室 052-789-5767

7月10日(火)～27日(金)

場 所：国際開発研究科、近畿大学、
滋賀県立大学、他

平成24年度国別研修

「ナミビア イネーヒエ混作農法に係る農民参加型普及手法」

内 容：ナミビア農民参加型イネーヒエ混作栽培普及技術研修

[関連公開セミナー]

7月12日(木)

内 容：ナミビア JICA 研修員によるジョブレポート発表会

場 所：国際開発研究科8階第1会議室

時 間：13:00～14:30

参 加 費：無料

[問い合わせ先]

国際開発研究科 西川芳昭研究室事務局

hayashi@gsid.nagoya-u.ac.jp

7月19日(木)

場 所：IB 電子情報館2階大講義室

時 間：13:00～17:00

対 象：本学構成員および一般

名古屋大学・日本 IBM

共同セミナー

内 容：講演、ラウンドテーブル

[問い合わせ先]

情報文化学部・情報科学研究科

事務部 052-789-4716

7月19日(木)

場 所：医学部附属病院中央診療棟
3階講堂

時 間：13:00～18:15

対 象：関係研究者

参 加 費：無料

懇親会費：1,000円

グローバル COE

「機能分子医学への神経疾患・腫瘍の融合拠点」

第5回国内シンポジウム

[問い合わせ先]

GCOE 推進室 052-744-1946

7月20日(金)、21日(土)

場 所：野依記念学術交流館

参 加 費：2,000円 (一般・

プロシーディングズ代込み)、

無料 (学生・プロシーディングズ

は別途1,000円)

第25回タンデム加速器及びその周辺技術の研究会



[問い合わせ先]

年代測定総合研究センター事務局

052-789-2579

7月20日(金)

場 所：環境総合館1階レクチャーホール

時 間：18:00～19:30

参 加 費：無料

第81回防災アカデミー

講演題目：「心理学で危機に備える」

講 演 者：窪田由紀 (教育発達科学研究科教授)

[問い合わせ先]

減災連携研究センター 052-789-3468

イベントカレンダー

開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

7月21日(土)、8月4日(土)

場 所：インキュベーション施設1階
プレゼンテーションルーム

時 間：10:00~15:00

[問い合わせ先]

社会貢献人材育成本部

ビジネス人材育成センター 052-747-6490

ビジネス人材育成センター

平成23年度前期B人セミナー

テ ー マ：「長期インターンシップ事前研修 知的財産の重要性と付き合い方」、

「再生医療の現状と今後の展望」(7/21)

「ビジネスマナーと企業のルール」、

「食品のためのヒト臨床試験業界」(8/4)

7月26日(木)

場 所：文系総合館7階オープンホール

時 間：16:00~18:00

[問い合わせ先]

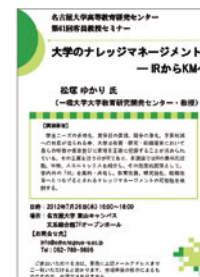
高等教育研究センター 052-789-5696

高等教育研究センター

第61回客員教授セミナー

講演題目：「大学のナレッジマネージメントー IR から KM へ」

講 演 者：松塚ゆかり氏（一橋大学教授）



7月27日(金)

場 所：カフェフロンテ

時 間：18:00~19:30

参 加 費：無料

(会場にてドリンクの注文が必要)

[問い合わせ先]

減災連携研究センター 052-789-3468

第14回げんさいカフェ

ー Gen Science Café ー

講演題目：「地震によるライフライン被害を考える」

講 演 者：北野哲司（減災連携研究センター寄附研究部門教授）

[問い合わせ先]

減災連携研究センター 052-789-3468

防災・減災カレッジ

内 容：防災人材育成研修

7月29日(日)

場 所：豊田講堂

時 間：13:00~17:00

[問い合わせ先]

減災連携研究センター 052-789-3468

気象台防災講演会

7月30日(月)~8月3日(金)

場 所：理学南館1階大講義室
(坂田・平田ホール)、他

参 加 費：30,000円（一般）、
15,000円（学生）

[問い合わせ先]

多元数理科学研究科

教育研究支援室 052-789-2833

FPSAC'12

The 24th International Conference on Formal Power Series and Algebraic Combinatorics

内 容：講演、プレゼンテーション、ポスターセッション、
ソフトウェアのデモンストレーション



開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

8月3日(金)

場 所：齋藤永宏研究室
(グリーンビークル材料研究施設
3階305室)、他

時 間：10:00~16:15

定 員：20名

対 象：小学生5年生、6年生
(可能であれば保護者同伴)

参 加 費：無料

[問い合わせ先]

齋藤永宏研究室 052-789-5163

日本学術振興会連携事業

ひらめき☆ときめきサイエンス

~ようこそ大学の研究室へ~ KAKENHI

テ ー マ：『ハスの葉のすごい』を顕微鏡でのぞいてみよう

内 容：特殊な顕微鏡でハスの葉の表面を観察し、生物の「すごい」の源について一緒に考える



8月4日(土)

場 所：博物館実験室、
東山キャンパス構内

時 間：10:20~15:20

定 員：20名

対 象：小学5年生以上、一般

参 加 費：50円(保険料)

[問い合わせ先]

博物館事務室 052-789-5767

ミクロの探検隊

テ ー マ：「雑木林のムシを電子顕微鏡で見よう」



8月8日(水)~10日(金)

場 所：豊田講堂、他

時 間：9:30~

参 加 費：無料

[問い合わせ先]

学務部入試課 052-789-5765

2012年度オープンキャンパス

内 容：大学紹介、施設見学、学生生活あれこれ、女性研究者からの情報発信、
在学生との対話など様々なプログラムを用意

8/9 教育学部、経済学部、工学部

8/10 法学部、医学部医学科、農学部

8/11 文学部、情報文化学部、医学部保健学科(大幸キャンパス)、
理学部

8月8日(水)~10日(金)

場 所：豊田講堂中2階ギャラリー
および3階第1会議室

時 間：10:00~17:00

対 象：愛知・岐阜・三重県の中学生・
高校生および保護者、学生、
教職員

[問い合わせ先]

総務部職員課

男女共同参画室担当 052-789-5976

名古屋大学若手女性研究者

サイエンスフォーラム

女子中高生理系進学推進セミナー

内 容：ポスターガイダンス(8/8~10)、ポスターセッション(8/9)、
基調講演、理系女子コミュニティ「あかりんご隊」の紹介、
総長賞の授賞式(8/10)

名大トピックス No.230 平成24年7月17日発行

編集・発行/名古屋大学広報室

本誌に関するご意見、ご要望、記事の掲載などは広報室にお寄せください。

名古屋市千種区不老町(〒464-8601)

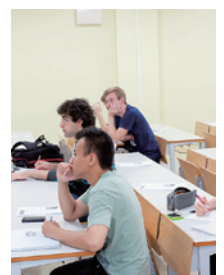
TEL 052-789-2016 FAX 052-788-6272 E-mail kouho@post.jimu.nagoya-u.ac.jp

名大トピックスのバックナンバーは、名古屋大学のホームページ

(<http://www.nagoya-u.ac.jp/extra/topics/>)でもご覧いただけます。

表紙

講義を受ける国際プログラム
群物理数理系プログラムの学生
(平成24年6月12日)



123 近年の名大祭② — 2000年以降 —

今回は、2000年から現在までの名大祭です。

2000年代のテーマはさらに短く単語が多くなり、「夢」や「幻」といった非日常的な言葉が目立つことが特徴です。もっとも、2002(平成14)年にはパンフレットのテーマ説明から「テーマアピール」の語が消え(今年は復活)、さらにこの年からテーマキャラクターが毎年選定されるようになるなど、テーマの象徴化はさらに顕著になっています。

さて、2000年以降の新しい動きとしては、エコロジーとバリアフリーへの取り組みが挙げられます。例えば、1999年のパンフに「名大祭ごみ非常事態宣言」を掲載し、2000年から会場に「リサイクルステーション」を設けたり、2000年から2005年にかけて「エコツアー」(スタンプラリー)をおこないました。2005年からは「バリアフリー情報マップ」がパンフに掲載され、その後も「授乳・おむつ換えスペース」の設置や、パンフへの「バリアフリー企画」の表

示など、さまざまな試みがなされています。

2003年からは、「地域社会との調和と交流」を目標とする取り組みがはじまりました。これは、近辺の宅地化がさらに進むなか、夜間の作業や当日の騒音・路上駐車などの問題について、地域住民の方々のご理解を得るためのものです。また2006年からは「地域を巻き込む名大祭」をテーマに盆踊り企画を立ち上げ、現在では名大祭の定番行事になりつつあります。

また、名大祭の前の開学記念祭の時代から、あるいは経済学部の前身に当たる名古屋高等商業学校などの歴史をひもとけば、戦前からおこなわれてきたファイヤーストームが、2009年の第50回を最後に姿を消しました。そのほか、1972年から続いてきた徹夜スケートが2009年からは徹夜ではなくなるなど、伝統企画の終えんや変化も見られました。



回	開催年	テーマ
41	2000	好きです、名大
42	2001	白地図
43	2002	飛翔
44	2003	夢空間
45	2004	活
46	2005	道草
47	2006	夢源
48	2007	彩幻～サイゲン～
49	2008	夢滴
50	2009	愛されて、はんせいぎ
51	2010	だって、笑顔でいたいじゃない
52	2011	常笑気流!!
53	2012	歩けばそこに、未知がある



3	2	1
4	5	

- 2000年以降の名大祭のテーマ。2009年以降は、再び短文形式が多くなりつつある。
- 2007年のテーマキャラクター「サイタ」。
- 2000年に設けられたリサイクルステーションは、「ごみステーション」として現在も続いている(写真は2011年)。
- 2002年のグリーンフェスティバル。1977年から続いていた企画だが、2006年の第30回が最後となった。
- 2008年の食中毒発生により2009年には全面自粛となった飲食模擬店は2010年に復活したが、店の数を大きく削減し、場所もグリーンベルト北側の通りに限定された(写真は今年の名大祭の飲食店エリア)。